

G

令和4年度ノーリフティングケア普及促進事業

モデル施設実践報告会

O

Goリフティングから Noリフティングへ
～チームの大切さ～

↓

N



社会福祉法人久英会 若久シニアビレッジ

O

組

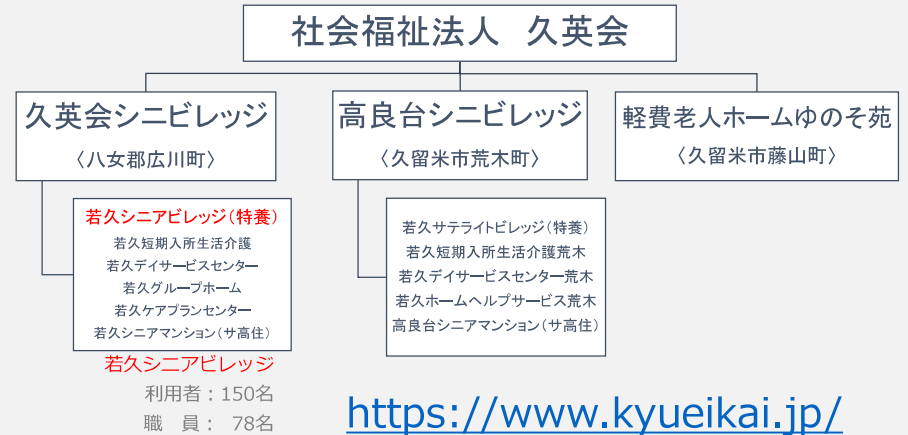
社会福祉法人久英会 組織図

織

【理念】

私たちは、社員の幸福度向上を目指し、健康経営を実践します。
私たちは、常に成長する努力を惜みず、医療・介護・福祉の
一体的提供により、地域社会の町創りに貢献します。

図



き

取組みのきっかけ



っ

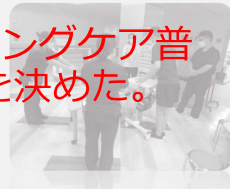
か

け

- 例年取り組んでいる**SWOT**クロス分析を行う中で各職員からの意見は**職員の身体的負担の軽減**や**介護ロボット**の導入を議論しており、併せて法人全体で【健康経営】を図っていた。
- 安全衛生委員会で毎年実施している、職員対象安全衛生アンケートでは腰痛に悩まされていた職員も多数発覚する。



- 今年度に入り「福岡県ノーリフティングケア普及促進事業」の取組みを知り参加を決めた。



委

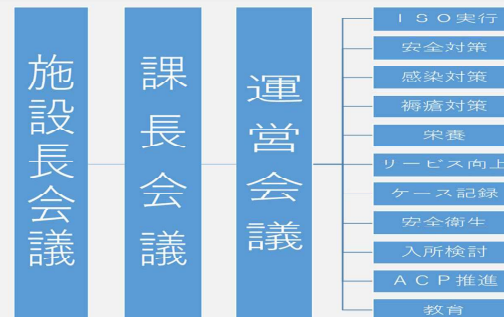
仮委員会発足

員

会

普及促進事業に関わる5名の担当者を選出

新年度活動がスタートしていた為、組織内の委員会としては発足出来ず... 5名のみで活動を開始



活

各担当に別れて活動開始

動

リスク
マネジメント



おむつ台車変更
〈腰痛軽減〉



開

健康管理



腰痛調査
〈職員状況把握〉



始

福祉用具



必要数検討
購入検討



P

プランニング



3ヶ月に1回担当者会議
移乗方法(福祉用具使用等)を
ケアプラン内容へ追加

D



C

A

教育



資料作成配布・動画視聴
実技研修指導

しかし

ノーリフティングケア(福祉用具使用)定着に繋がらず・・・

P

原因として

ケアプラン(個別対応)内容が各職員へ伝わっていない

プランニングから教育までの詳細な連携がとれていない

基本的な技術は把握しているものの
利用者に合わせた介助技術がない

そもそも取り組みを理解していない

職員の「抱えた方が早い」という根強い考え

P

活動していく中で

各担当がマネジメント研修、地域連絡協議会で指導を
受けた内容を各々実践

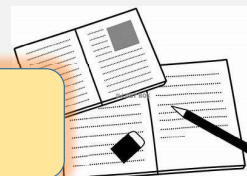
マンパワー不足

5人集まれる機会がなく、活動に行き詰まり、サポート
メンバーを選出(主任4名追加)指導

指導不足

サポートメンバーも活動内容を把握しきれず上手く動けな
かった

委員会の活動計画作成へ



解

課題解決方法

決

不明確な
委員会活動

正式な委員会発足

方

ボードは
どこに？

誰が担当？

話し合いは
いつ？

現場が大変
な時に！

詳細は

法

解

課題

活動内容

決

時間がない

スケジュール作成

方

マンパワー不足

役割分担の明確化

法

情報不足

福祉用具業者との連携
地域連絡協議会参加

福祉用具の管理不足

管理方法の明確化

次

次年度に向けての具体的活動

年

SWOTクロス分析

施設目標へ織込む

委員会発足

年間スケジュール作成

学習と成長

度

ま

まとめ

と

当施設は環境や多職種配置が整備されているにも関わらず、それらを活かすことの術や手段を理解(意識)していなかったためか【宝のもち腐れ】となっていた。

め

ノーリフティングケアとは何のために行うか？行うことにより何を得るのか？学ぶことによって、答えが見えてくるはず。

生産性向上や業務効率化など課題と向き合い、日々過ごしていたが、ノーリフティングケア普及促進事業はこれから目指すべき施設への大きな一歩となった。

Goリフティングから Noリフティングへ